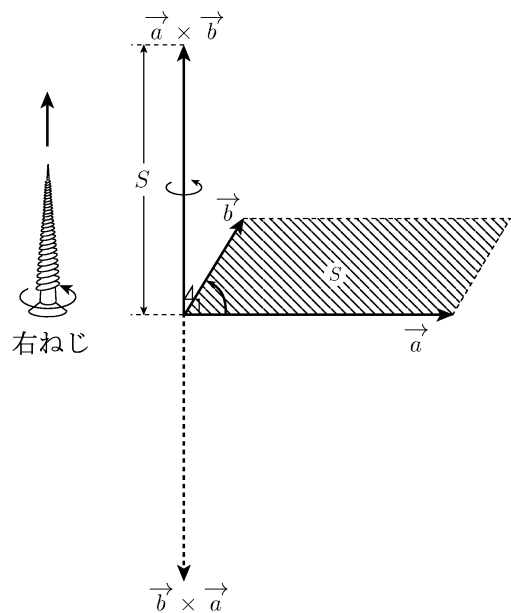


高知工科大学
基礎数学ワークブック
(2000年度版)

10

内容

- ◎ 平面のベクトル
- ◎ 内積
- ◎ 2次の行列式と面積
- ◎ 空間のベクトル
- ◎ 外積

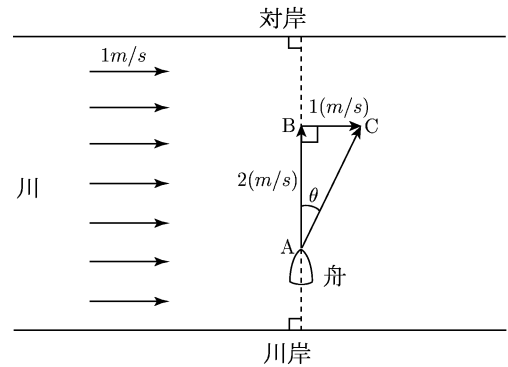


電子・光システム工学科
井上 昌昭 著

< 速度の合成 >

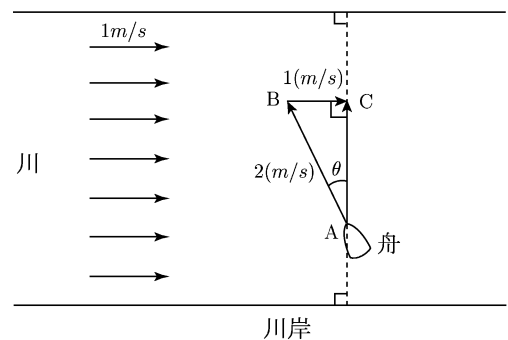
例 1 静水中を 2m/s の速さで進む舟が、流速 1m/s の川を、一方の川岸から対岸へ向かって進む。もし静水中であれば一秒間に A 地点から B 地点まですすむはずであるが、かわのながれのため、実際は A 地点から C 地点に向かって角度 θ だけ流される。この角度 θ を正確に求めるためには、AB の長さを 2 (=舟の速さ)、BC の長さを 1 (=川の流速) とした直角三角形 ABC を作ると、三平方の定理より $AC = \sqrt{5}$ となるから、

$$\sin \theta = \frac{1}{\sqrt{5}} \approx 0.4472 \quad \text{より} \quad \theta \approx 26.6^\circ$$

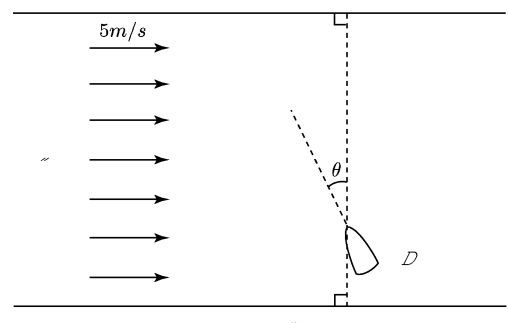


例 2 例 1 と同じ場合に、この川を川岸に対し垂直にわたりたい。このとき、舟のへさきを川に垂直な方向から角度 θ だけ上流へ傾けて進ませる必要がある。例 1 と同様に、舟の速度を矢線 AB(長さ 2)、川のを速度を矢線 BC(長さ 1) として AC が川岸に対し垂直方向になるとすると、直角三角形 ABC ができる。図より

$$\sin \theta = \frac{1}{2} \quad \text{だから} \quad \theta = 30^\circ$$

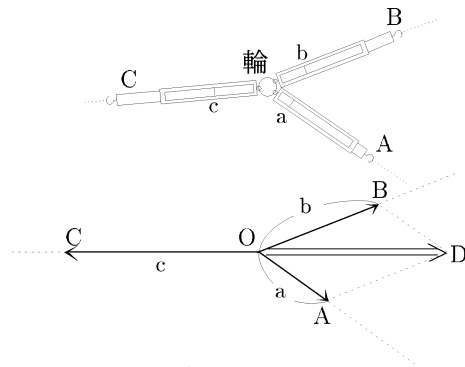


問 静水中を 13m/s で走る船がある。この船で、流れの速さが 5m/s の河を河岸に垂直にわたりたい。このために、船の進行方向を河岸に対し角度 θ だけ上流に傾けて走らせる必要がある。このとき $\sin \theta$ の値を求めよ。



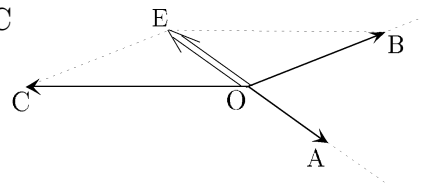
< 力の合成 >

例 机の上に白紙を置き, その上に針金で作った輪を置いて, 3本のばね秤 A, B, C をひっかける。A, B, C を適当に引っ張って輪が静止したとき, それぞれのばねの目盛り a, b, c を読む。又, それぞれのばねの方向を白紙の上に記録する。輪の中心を O とし, それぞれのばねの方向にその目盛りの長さだけ矢線をひき, その矢線の先を A, B, C とする。

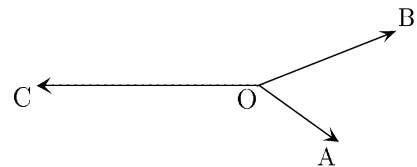


次に OA, OB を 2 辺とする平行四辺形 OADB を作り, 対角線 OD をひく。すると, 矢線 OD と矢線 OC は方向が同じ (矢印の向きは逆) で, 長さも等しい。それぞれのばねを引く力を矢線 (\vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC}) で表すと, \vec{OA} と \vec{OB} との合力が \vec{OD} であり, \vec{OC} とつりあっていることがわかる。

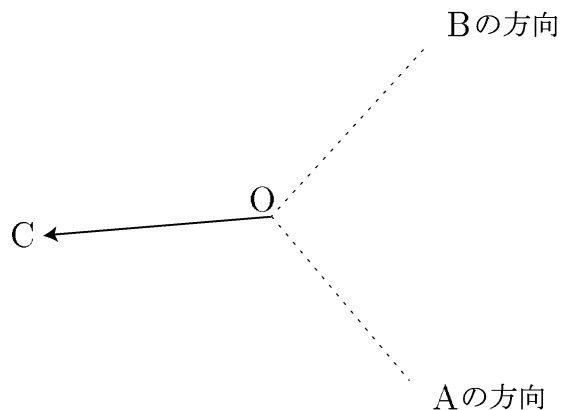
同様にして OB, OC を 2 辺とする平行四辺形 OBEC を作り, 対角線 OE をひくと, 矢線 OE と OA は方向が同じ (向きが逆) で, 長さも等しい。つまり \vec{OB} と \vec{OC} の合力が \vec{OE} であり, \vec{OA} とつりあっている。



問 1 右図に \vec{OA} と \vec{OC} との合力 \vec{OF} を作図せよ。



問 2 ばねの方向と, C の目盛りだけは記録したが, A, B の目盛りを記録し忘れたので \vec{OA} と \vec{OB} の矢線の長さがわからない。 \vec{OA} , \vec{OB} , \vec{OC} がつりあうように, 右図に矢線 \vec{OA} , \vec{OB} を作図せよ。



<平面上のベクトル1>

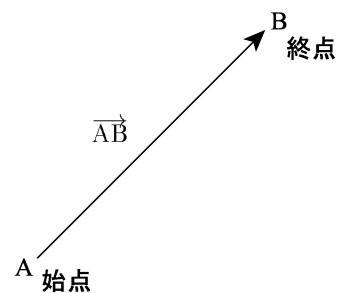
速度や力などの場合は、その大きさ(強さ)だけでなく、その方向(向き)をあわせて考える必要がある。このような場合は方向を矢印(矢線)で示し、その大きさは矢線の長さで表す。

川の流れなどで、場所によって速度が変わらないときは、一本の矢線で流れの速度を表すことができる。このように、矢線で、向きと大きさだけを考え、位置を問題にしないとき、これをベクトル(*vector*)という。

点Aから点Bまでの矢線ABで表されるベクトルを

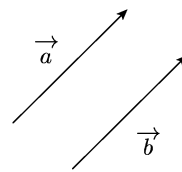
$$\overrightarrow{AB}$$

と書き、ベクトルABと読む。このときAをベクトル \overrightarrow{AB} の始点といい、Bを終点という。ベクトルは \vec{a} のような記号で表したり、太字で \mathbf{a} と表したりする(ワークブックでは \vec{a} と書くことにする)。



ベクトル \vec{a} , \vec{b} について、向きが同じで、大きさが等しいとき、 \vec{a} と \vec{b} は等しいといい、

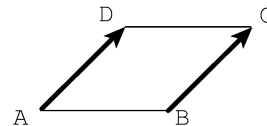
$$\vec{a} = \vec{b}$$



と書く。右図の平行四辺形ABCDでは

$$\overrightarrow{AD} = \overrightarrow{BC}$$

である。

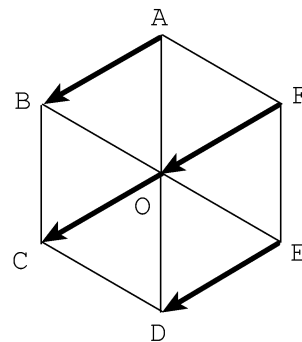


例 右図の正六角形ABCDEFの中心をOとすると、

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{FO} = \overrightarrow{OC} = \overrightarrow{ED}$$

である。

問 右の正六角形で、 \overrightarrow{AF} に等しいベクトルを3つ書け。



< 平面上のベクトル 2 >

1 ページでやった川の速度と船の速度の合成速度を求める方法や、2 ページでやった2つの力の合力を求める方法は、ベクトルとして同じ概念である。

2つのベクトル \vec{a} 、 \vec{b} が与えられているとする。

\vec{a} と \vec{b} の始点を同じ点 O にもっていき、終点を A 、 B とし、 OA 、 OB を2辺とする平行四辺形 $OACB$ を作るとベクトル \vec{OC} が決まる。これを \vec{a} と \vec{b} との和といい、

$$\vec{a} + \vec{b}$$

と書く。 \vec{a} と \vec{b} が2つの力であれば $\vec{a} + \vec{b}$ はその合力を表す。又、 \vec{a} 、 \vec{b} が2つの速度であれば、 $\vec{a} + \vec{b}$ はその合成速度を表す。

ここで、 $\vec{b} = \vec{OB} = \vec{AC}$ であるから、

$$\vec{OA} + \vec{AC} = \vec{OC}$$

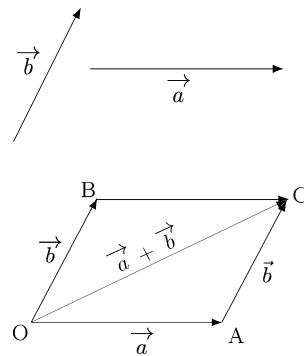
が成り立つ。 O から出発して A に行くベクトルと、 A から出発して C に行くベクトルとの和は、途中の中継点 A を略して最初の到着点 C に行くベクトルになる。

同様にして、4点 O 、 A 、 B 、 C に対し

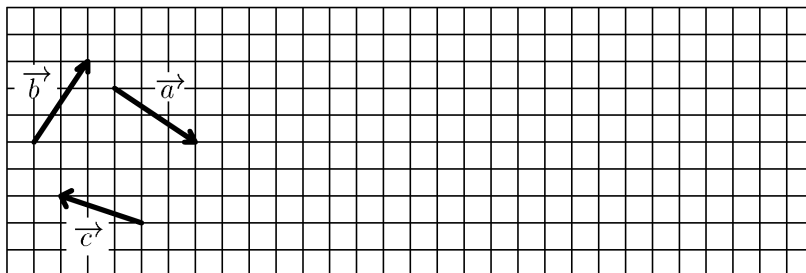
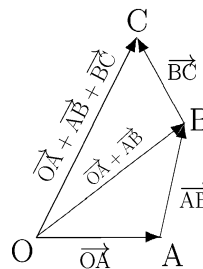
$$\vec{OA} + \vec{AB} + \vec{BC} = \vec{OC}$$

が成り立つ。

問 ベクトル \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} が下図の場合に、 $\vec{a} + \vec{b}$ 、 $\vec{b} + \vec{c}$ 、 $\vec{a} + \vec{b} + \vec{c}$ を作図せよ。



$$\vec{OA} + \vec{AC} = \vec{OC}$$

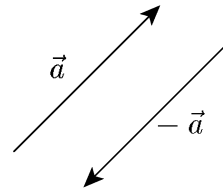


<平面上のベクトル3>

\overrightarrow{AA} は、始点 A と終点 B が一致する場合にもベクトルと考える。
これを零ベクトルといい、 $\vec{0}$ で表す。つまり

$$\overrightarrow{AA} = \vec{0}$$

零ベクトルの大きさは0で、その向きは考えないものとする。
ベクトル \vec{a} に対して、大きさが同じで、
向きが反対であるベクトルを、 \vec{a} の
逆ベクトルといい、 $-\vec{a}$ で表す。
 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ のとき、 $-\vec{a} = \overrightarrow{AO}$ である。



$$\overrightarrow{OA} = -\overrightarrow{AO}$$

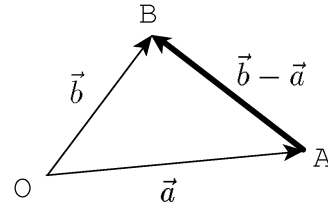
2つのベクトル $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ に対し
て、

$$\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB}$$

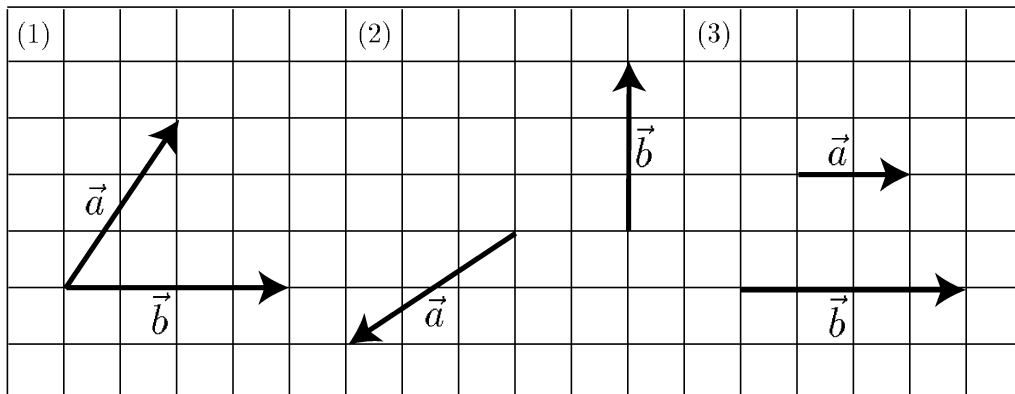
だから \overrightarrow{AB} を \vec{b} と \vec{a} の差といい、

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \vec{b} - \vec{a}$$

と表す。 \overrightarrow{AB} をベクトルの差として $\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$ と表す場合には
「終点(B) - 始点(A)」と覚えておくとよい。

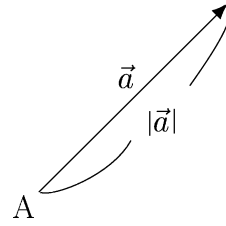


問 \vec{a} , \vec{b} が次のように与えられている場合に $\vec{b} - \vec{a}$ を図示せよ。



< 平面上のベクトル 4 >

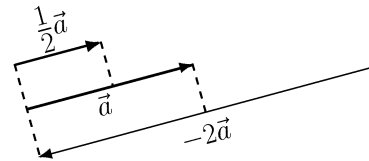
ベクトル \vec{a} の大きさを $|\vec{a}|$ で表す。
 $\vec{a} = \overrightarrow{AB}$ のときは、 $|\vec{a}|$ は線分 AB の長さである。



大きさが 1 であるベクトルを 単位ベクトル という。

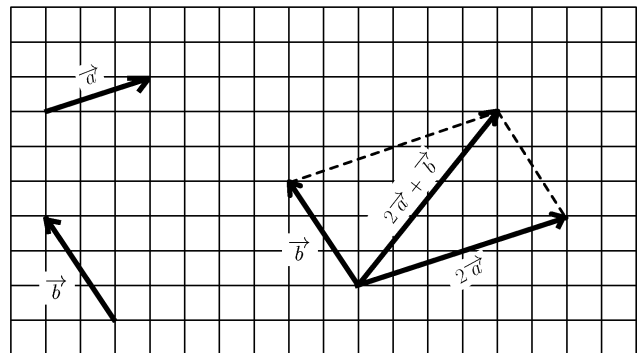
$\vec{0}$ でないベクトル \vec{a} と整数 k に対して

- (1) $k\vec{a}$ は、 \vec{a} と向きが同じで大きさが k 倍のベクトル
- (2) $-k\vec{a}$ は、 \vec{a} と向きが逆で大きさが k 倍のベクトル



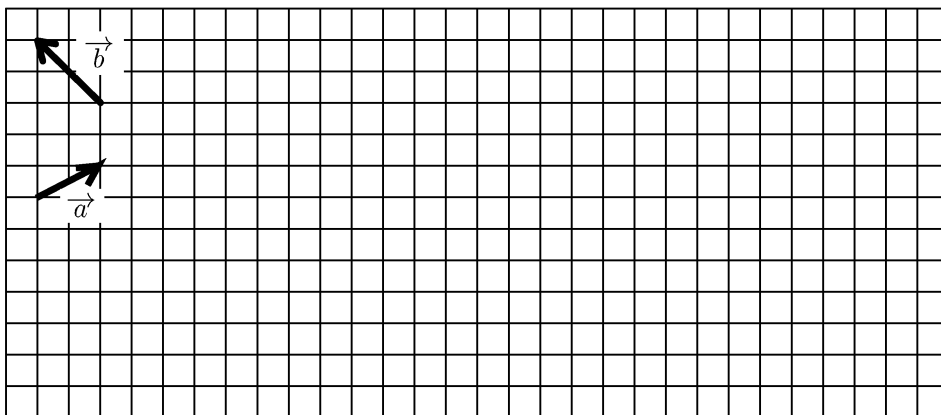
と定める。このようなベクトルを \vec{a} の実数倍 (又はスカラー積) という。

例 ベクトル \vec{a} 、 \vec{b} が右図の様に与えられているとき
 $2\vec{a} + \vec{b}$
 を図示すると、右のようになる。



問 ベクトル \vec{a} 、 \vec{b} が下の図の様に与えられているとき、次のベクトルを図示せよ。

- (1) $-3\vec{a}$ 、 (2) $\frac{5}{2}\vec{b}$ 、 (3) $3\vec{a} - 2\vec{b}$ 、 (4) $2\vec{a} - \frac{3}{2}\vec{b}$



<平面上のベクトル5>

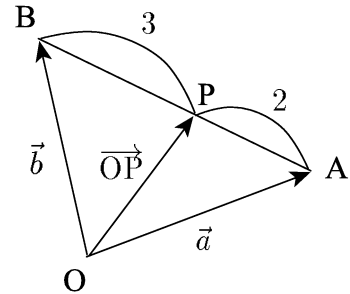
例題 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$ で、線分 AB を 2 : 3 に内分する点を P とするとき、 \overrightarrow{OP} を \vec{a} , \vec{b} で表せ。

(解) $\overrightarrow{OP} = \overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AP}$, $\overrightarrow{AP} = \frac{2}{2+3}\overrightarrow{AB}$,

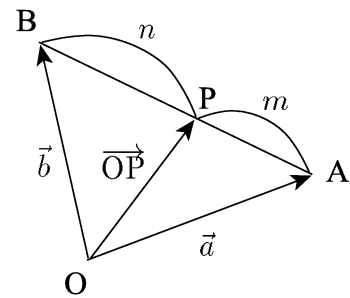
$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA}$$

より

$$\overrightarrow{OP} = \vec{a} + \frac{2}{5}\overrightarrow{AB} = \vec{a} + \frac{2}{5}(\vec{b} - \vec{a}) = \frac{3}{5}\vec{a} + \frac{2}{5}\vec{b}$$



問1 線分 AB を $m : n$ に内分する点を P とするとき、 \overrightarrow{OP} を \vec{a} ($=\overrightarrow{OA}$) と \vec{b} ($=\overrightarrow{OB}$) で表せ。

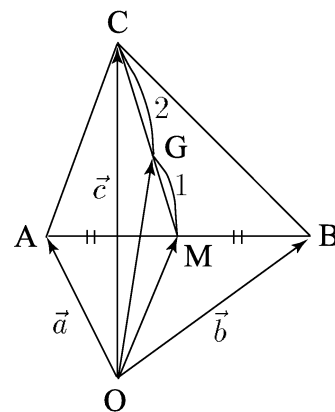


問2 三角形 ABC に対し、AB の中点を M, MC を 1 : 2 に内分する点を G, $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB}$, $\vec{c} = \overrightarrow{OC}$ とする。

(1) \overrightarrow{OM} を \vec{a} と \vec{b} で表せ。

(2) \overrightarrow{OG} を \overrightarrow{OM} と \vec{c} で表せ。

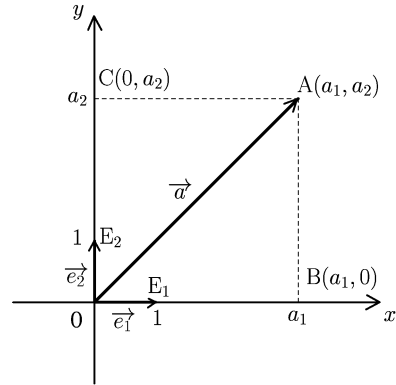
(3) \overrightarrow{OG} を \vec{a} , \vec{b} , \vec{c} で表せ。



<ベクトルの成分 1>

O を原点とする座標平面上の 2 点 $E_1(1, 0)$ 、 $E_2(0, 1)$ に対して、
 $\vec{e}_1 = \overrightarrow{OE_1}$ 、 $\vec{e}_2 = \overrightarrow{OE_2}$
 を基本ベクトルという。

平面上の任意の点 $A(a_1, a_2)$ に対し、2 点 $B(a_1, 0)$ 、 $C(0, a_2)$ をとると



$$\overrightarrow{OA} = \overrightarrow{OB} + \overrightarrow{OC}$$

となる。ここで $\overrightarrow{OB} = a_1 \vec{e}_1$ 、 $\overrightarrow{OC} = a_2 \vec{e}_2$ だから、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ は

$$\vec{a} = a_1 \vec{e}_1 + a_2 \vec{e}_2$$

と表す事が出来る。この a_1 、 a_2 を \vec{a} の成分といい、 a_1 を x 成分、 a_2 を y 成分という。このとき \vec{a} を成分を使って

$$\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$$

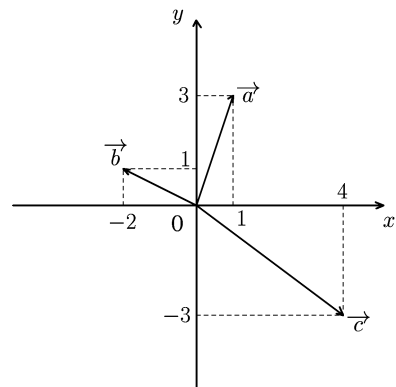
と表す。(このように成分を縦に並べる表し方を縦ベクトル表示といい、 $\vec{a} = (a_1, a_2)$ の様に横に並べる表し方を横ベクトル表示という。本書では、縦ベクトル表示を使う。)

例 1 $\vec{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}$ 、 $\vec{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ 、 $\vec{0} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ …… 零ベクトル

例 2 2 点 $A(2,3)$ 、 $B(4,-1)$ に対し、 \overrightarrow{OA} 、 \overrightarrow{OB} を成分で表すと

$$\overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \end{pmatrix}、\overrightarrow{OB} = \begin{pmatrix} 4 \\ -1 \end{pmatrix}$$

問 右図のベクトル \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} を成分で表せ。

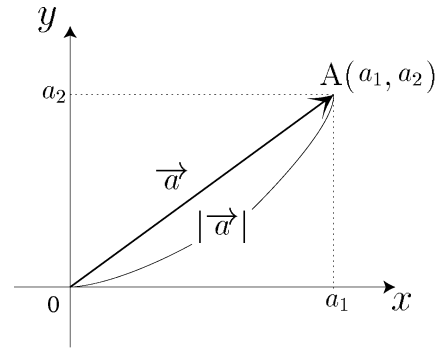


<ベクトルの成分2>

右図のように $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ の大きさ $|\vec{a}|$ は、

線分 OA の長さと一致するから

$$\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} \text{ のとき } |\vec{a}| = \sqrt{a_1^2 + a_2^2}$$



例題 2点 A(3, 1), B(4, 5) が与えられたとき、 \overrightarrow{AB} の成分と大きさを求めよ。

(解) ベクトル \overrightarrow{AB} を右図のように

x 軸方向に -3

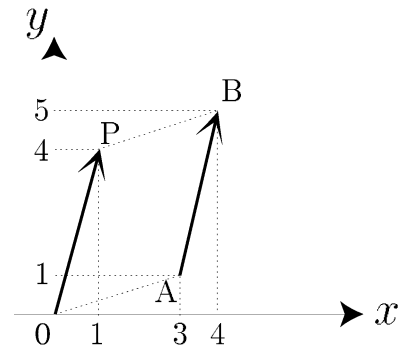
y 軸方向に -1

だけ平行移動するとベクトル \overrightarrow{OP} になるから

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OP} = \begin{pmatrix} 4-3 \\ 5-1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 4 \end{pmatrix}$$

より

$$|\overrightarrow{AB}| = \sqrt{1^2 + 4^2} = \sqrt{17}$$



(別解)

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AB} &= \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} \quad \dots (\text{終点} - \text{始点}) \\ &= \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 4 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

問 次の2点 A, B に対し、 \overrightarrow{AB} を成分で表し、その大きさを求めよ。

(1) A (5, 2), B (7, 3)

(2) A (4, -1), B (3, 1)

$$\overrightarrow{AB} =$$

$$\overrightarrow{AB} =$$

$$|\overrightarrow{AB}| =$$

$$|\overrightarrow{AB}| =$$

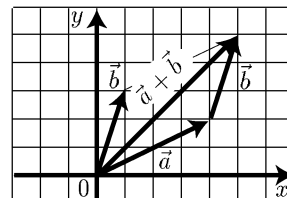
<ベクトルの成分3>

例題 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}$ のとき、次のベクトルの成分を求めよ。

- (1) $\vec{a} + \vec{b}$, (2) $\vec{a} - \vec{b}$, (3) $\frac{1}{2}\vec{a}$, (4) $2\vec{b}$

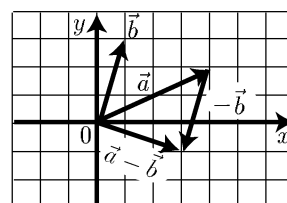
(解) (1) 右図より

$$\vec{a} + \vec{b} = \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 \\ 5 \end{pmatrix}$$



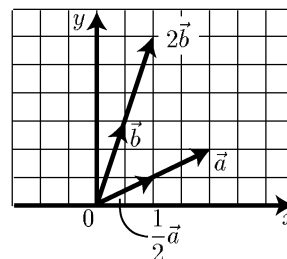
(2) 右図より

$$\begin{aligned} \vec{a} - \vec{b} &= \vec{a} + (-\vec{b}) \\ &= \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -1 \\ -3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$



(3) 右図より

$$\frac{1}{2}\vec{a} = \frac{1}{2} \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$$



(4) 右図より

$$2\vec{b} = 2 \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \\ 6 \end{pmatrix}$$

問1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ のとき、次のベクトルの成分を求めよ。

(k は定数)

(1) $\vec{a} + \vec{b} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} =$

(2) $\vec{a} - \vec{b} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} =$

(3) $k\vec{a} = k \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix} =$

問2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 6 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} -1 \\ -3 \end{pmatrix}$ のとき、次のベクトルの成分を求めよ。

(1) $\frac{1}{2}\vec{a} =$

(2) $-\vec{b} =$

(3) $\vec{a} - \vec{b} =$

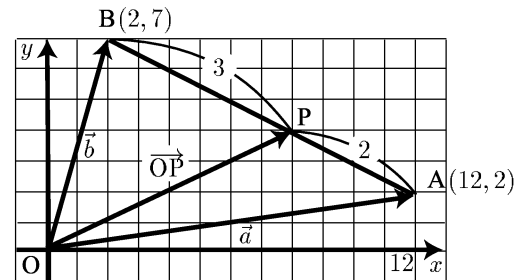
(4) $\vec{a} + 2\vec{b} =$

< 内分点 >

例題 平面上の2点 $A(12, 2)$, $B(2, 7)$ に対し、線分 AB を $2:3$ に内分する点 P の座標を求めよ。

(解) 原点を O とし、

$$\vec{a} = \overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} 12 \\ 2 \end{pmatrix}, \quad \vec{b} = \overrightarrow{OB} = \begin{pmatrix} 2 \\ 7 \end{pmatrix}$$



とおくと、7ページの例題より、ベクトル \overrightarrow{OP} の成分は

$$\begin{aligned} \overrightarrow{OP} &= \frac{3}{5}\vec{a} + \frac{2}{5}\vec{b} = \frac{3}{5} \begin{pmatrix} 12 \\ 2 \end{pmatrix} + \frac{2}{5} \begin{pmatrix} 2 \\ 7 \end{pmatrix} \\ &= \begin{pmatrix} \frac{36}{5} \\ \frac{6}{5} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \frac{4}{5} \\ \frac{14}{5} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{40}{5} \\ \frac{20}{5} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 8 \\ 4 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

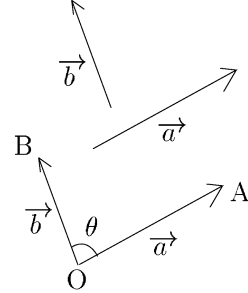
よって、 P の座標は $(8, 4)$ である。

問 1 平面上の2点 $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ に対し、線分 AB を $1:2$ に内分する点 P の座標を求めよ。

問 2 平面上の2点 $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ に対し、線分 AB を $m:n$ に内分する点 P の座標を (7ページの問 1 を参考にして) 求めよ。

<ベクトルの内積1>

$\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} に対し、
 \vec{a} と \vec{b} の始点を同じ点 O にもっていき、
 終点をそれぞれ A, B とするとき、
 $\angle AOB$ の大きさ θ は、 \vec{a}, \vec{b} によってきま
 る。この角 θ をベクトル \vec{a}, \vec{b} の
 つくる角という。



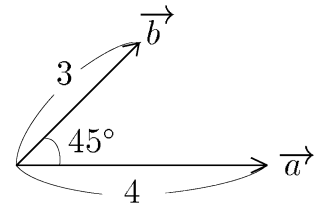
ベクトル \vec{a}, \vec{b} のつくる角が θ のとき

$$|\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta$$

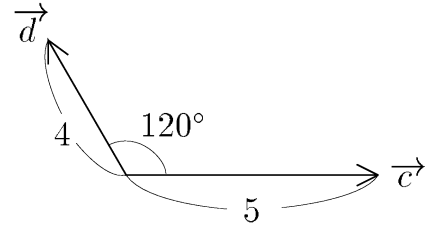
を、ベクトル \vec{a}, \vec{b} の内積といい、 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ で表す。すなわち

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| |\vec{b}| \cos \theta \quad (\text{内積の定義})$$

例 (1) $|\vec{a}| = 4, |\vec{b}| = 3$ で
 \vec{a}, \vec{b} のつくる角が 45° のとき
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = 4 \times 3 \times \cos 45^\circ$
 $= 4 \times 3 \times \frac{\sqrt{2}}{2} = 6\sqrt{2}$



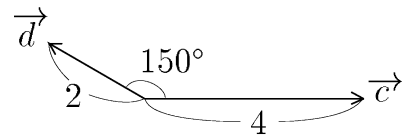
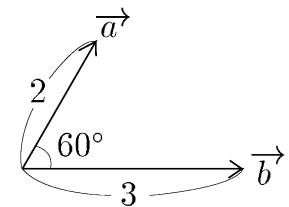
(2) $|\vec{c}| = 5, |\vec{d}| = 4$ で
 \vec{c}, \vec{d} のつくる角が 120° のとき
 $\vec{c} \cdot \vec{d} = 5 \times 4 \times \cos 120^\circ$
 $= 5 \times 4 \times \left(-\frac{1}{2}\right) = -10$



問 $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \vec{d}$ が右図の場合に
 内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}, \vec{c} \cdot \vec{d}$ を求めよ。

$$\vec{a} \cdot \vec{b} =$$

$$\vec{c} \cdot \vec{d} =$$



<ベクトルの内積2>

内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ で、 $\vec{a} = \vec{b}$ のときは、 $\cos \theta = \cos 0^\circ = 1$ だから

$$\vec{a} \cdot \vec{a} = |\vec{a}|^2 \text{ つまり、} |\vec{a}| = \sqrt{\vec{a} \cdot \vec{a}}$$

又、 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ のなす角が 90° のとき、 \vec{a} と \vec{b} は垂直であるといい、 $\vec{a} \perp \vec{b}$ と書く。 $\cos 90^\circ = 0$ であるから、次が成り立つ。

$\vec{a} \neq \vec{0}, \vec{b} \neq \vec{0} \text{ のとき}$ $\vec{a} \perp \vec{b} \iff \vec{a} \cdot \vec{b} = 0$

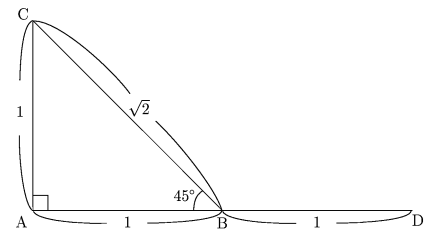
(ベクトルの垂直と内積)

例 右図の直角二等辺三角形において

$$\vec{AB} \cdot \vec{AC} = 1 \times 1 \times \cos 90^\circ = 0$$

$$\vec{BA} \cdot \vec{BC} = 1 \times \sqrt{2} \times \cos 45^\circ = 1$$

$$\vec{AB} \cdot \vec{BC} = \vec{BD} \cdot \vec{BC} = 1 \times \sqrt{2} \times \cos 135^\circ = -1$$



問 右図のように一辺の長さが2の正三角形 ABC がある。辺 BC の中点を M とするとき、次の内積の値を求めよ。

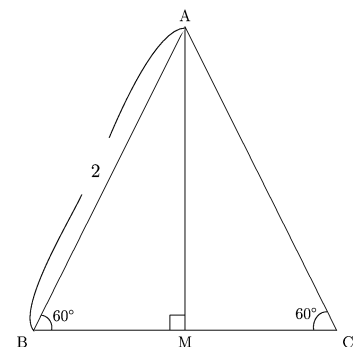
(1) $\vec{AB} \cdot \vec{AC} =$

(2) $\vec{AB} \cdot \vec{AM} =$

(3) $\vec{BC} \cdot \vec{AM} =$

(4) $\vec{AB} \cdot \vec{BC} =$

(5) $\vec{MB} \cdot \vec{MC} =$



< 内積の成分表示 1 >

座標平面上の2点 $A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$ と原点 O に対し、2点間の距離の公式より

$$AB^2 = (b_1 - a_1)^2 + (b_2 - a_2)^2$$

である。一方 $\angle AOB = \theta$ とすると、余弦定理より

$$AB^2 = OA^2 + OB^2 - 2 \times OA \times OB \times \cos \theta$$

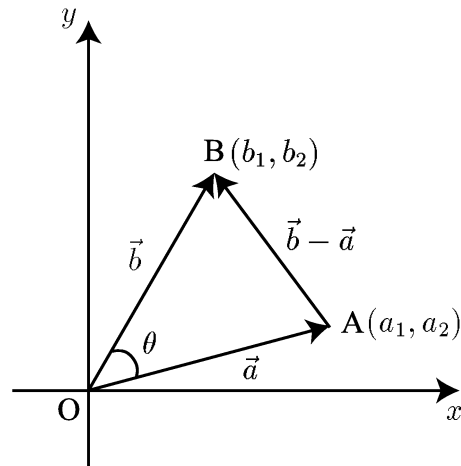
であるから

$$OA \times OB \times \cos \theta = \frac{1}{2} \{OA^2 + OB^2 - AB^2\} \dots\dots\dots (*)$$

となる。

問1 (*) 式の右辺を a_1, a_2, b_1, b_2 についての簡単な式で表せ。

$$\frac{1}{2} \{OA^2 + OB^2 - AB^2\} =$$



問2 $\vec{a} = \overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ とすると、内積は

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \times \cos \theta = OA \times OB \times \cos \theta$$

となる。問1の結果を使って、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を a_1, a_2, b_1, b_2 についての簡単な式で表せ。

$$\vec{a} \cdot \vec{b} =$$

< 内積の成分表示 2 >

前ページの結果より

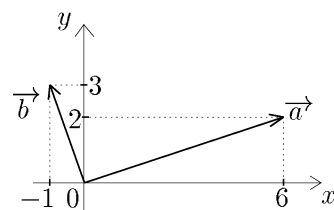
$$\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} \text{ のとき } \vec{a} \cdot \vec{b} = a_1b_1 + a_2b_2$$

である。

例 1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 6 \\ 2 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} -1 \\ 3 \end{pmatrix}$ のとき 内積 \vec{a}, \vec{b} は

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 6 \times (-1) + 2 \times 3 = 0$$

であるから、 \vec{a} は \vec{b} は垂直 ($\vec{a} \perp \vec{b}$) である。



問 1 \vec{a}, \vec{b} が以下の場合に内積を求め、 \vec{a} と \vec{b} が垂直である場合は $\vec{a} \perp \vec{b}$ と書け。

(1) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \end{pmatrix}, \vec{a} \cdot \vec{b} =$

(2) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 6 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} -3 \\ 2 \end{pmatrix}, \vec{a} \cdot \vec{b} =$

(3) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \vec{a} \cdot \vec{b} =$

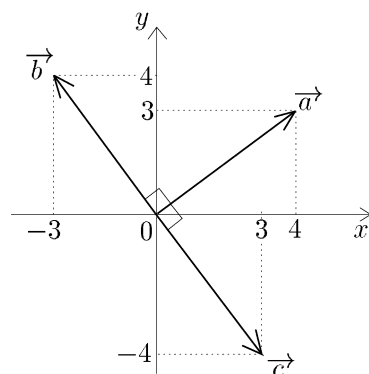
例 2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 3 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} -3 \\ 4 \end{pmatrix}, \vec{c} = \begin{pmatrix} 3 \\ -4 \end{pmatrix}$

のとき

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 4 \times (-3) + 3 \times 4 = 0$$

$$\vec{a} \cdot \vec{c} = 4 \times 3 + 3 \times (-4) = 0$$

より $\vec{a} \perp \vec{b}, \vec{a} \perp \vec{c}$ である。



問 2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \end{pmatrix}$ と垂直なベクトルの例を 2 つあげよ。

< ベクトルのなす角 >

例 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}$ と $\vec{b} = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \end{pmatrix}$ のなす

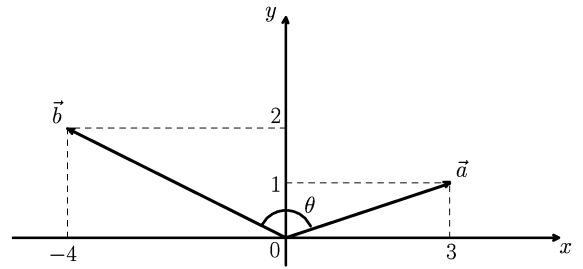
角 θ を求めたい。
内積の定義から

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \times \cos \theta$$

より

$$\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| |\vec{b}|} = \frac{3 \times (-4) + 1 \times 2}{\sqrt{3^2 + 1^2} \sqrt{(-4)^2 + 2^2}} = \frac{-10}{\sqrt{10} \sqrt{20}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}$$

よって $\cos \theta = -\frac{1}{\sqrt{2}}$ だから $\theta = \frac{3}{4}\pi$ ($= 135^\circ$) である。



問1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ 、 $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ のなす角 θ を求めたい。上の例にならって、 $\cos \theta$ の値を a_1, a_2, b_1, b_2 で表せ。

$$\cos \theta =$$

問2 以下の場合に、 \vec{a} と \vec{b} のなす角 θ ($0 \leq \theta \leq \pi$) を求めよ。

(1) $|\vec{a}| = 1$ 、 $|\vec{b}| = 2$ 、 $\vec{a} \cdot \vec{b} = -\sqrt{3}$

(2) $\vec{a} = \begin{pmatrix} -2 \\ 1 \end{pmatrix}$ 、 $\vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}$

(3) $\vec{a} = \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 3 \end{pmatrix}$ 、 $\vec{b} = \begin{pmatrix} \sqrt{3} \\ 1 \end{pmatrix}$

< 平行四辺形の面積 1 >

例 平面上の2つのベクトル

$$\vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 2 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} \text{ の始点を}$$

原点 O にもってくると、終点は $A(4, 2)$, $B(1, 3)$ となる。このとき \vec{a} と \vec{b} のつくる平行四辺形 $OACB$ の面積を求めたい。

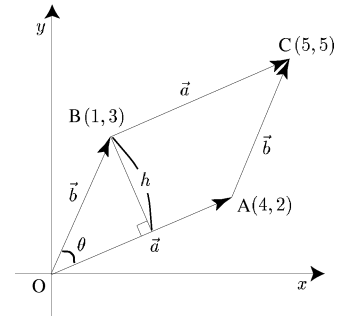
\vec{a} と \vec{b} のつくる角を θ 、平行四辺形の高さを h とすると

$$\frac{h}{OB} = \sin \theta \text{ より } h = OB \times \sin \theta$$

だから、面積 S は、 $S = OA \times OB \times \sin \theta$ である。よって

$$\begin{aligned} S^2 &= OA^2 \times OB^2 \times \sin^2 \theta = |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 \times (1 - \cos^2 \theta) \\ &= |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 - (|\vec{a}| \times |\vec{b}| \times \cos \theta)^2 \\ &= |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{b})^2 \\ &= (4^2 + 2^2) \times (1^2 + 3^2) - (4 \times 1 + 2 \times 3)^2 \\ &= 100 \end{aligned}$$

よって $S = 10$ である。



問 平面上の2つのベクトル

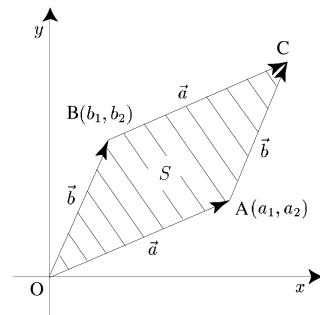
$$\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix} \text{ に対し、}$$

$A(a_1, a_2)$, $B(b_1, b_2)$, $C(a_1 + b_1, a_2 + b_2)$ をとると、四角形 $OACB$ は平行四辺形となる。この平行四辺形の面積 S を求めたい。

(1) S^2 を $|\vec{a}|$, $|\vec{b}|$, $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を用いて表せ。

(2) S^2 を a_1, a_2, b_1, b_2 を用いて表せ。

(3) S を a_1, a_2, b_1, b_2 を用いて表せ。



< 平行四辺形の面積 2 >

平面上の2つのベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ の作る平行四辺形の

面積 S は、前ページの結果より $S^2 = (a_1b_2 - a_2b_1)^2$ だから

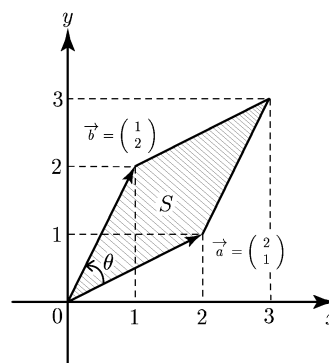
$$S = (a_1b_2 - a_2b_1) \text{ の絶対値}$$

である。

例1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ の作る

平行四辺形の面積 S は

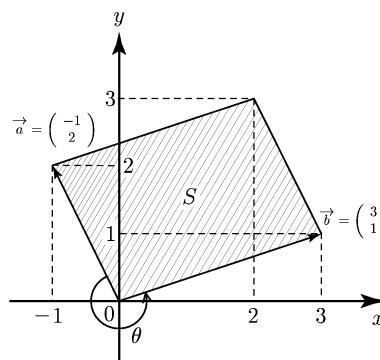
$$S = |2 \times 2 - 1 \times 1| = |3| = 3$$



例2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} -1 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 1 \end{pmatrix}$ の作る

平行四辺形の面積 S は

$$\begin{aligned} S &= |(-1) \times 1 - 2 \times 3| \\ &= |-7| = 7 \end{aligned}$$

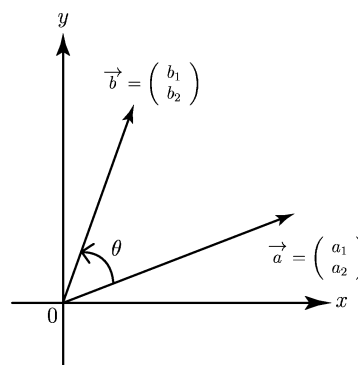


一般に2つのベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ と $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$

のなす角 θ を右図のように (\vec{a} から \vec{b} に向かって反時計回りに) 計ると

$$a_1b_2 - a_2b_1 = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \times \sin \theta$$

となる。例1の場合は $\sin \theta > 0$ より $a_1b_2 - a_2b_1 > 0$ であるが例2の場合は $\sin \theta < 0$ より $a_1b_2 - a_2b_1 < 0$ となる。



問 次の2つのベクトル \vec{a} と \vec{b} の作る平行四辺形の面積 S を求めよ。

(1) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix}$

$S =$

(2) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 4 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 5 \\ 2 \end{pmatrix}$

$S =$

< 2 次の行列式 >

平面上の2つのベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ に対して、 $a_1b_2 - a_2b_1$ の値を
 $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ の作る行列式といい、

$$a_1b_2 - a_2b_1 = \begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix}$$

という記号で表す。

例1 $\begin{vmatrix} 4 & 1 \\ 3 & 2 \end{vmatrix} = 4 \times 2 - 3 \times 1 = 5$, $\begin{vmatrix} 5 & 2 \\ 7 & -1 \end{vmatrix} = 5 \times (-1) - 7 \times 2 = -19$

問1 次の行列式の値を求めよ。

(1) $\begin{vmatrix} 2 & 5 \\ 1 & 8 \end{vmatrix}$

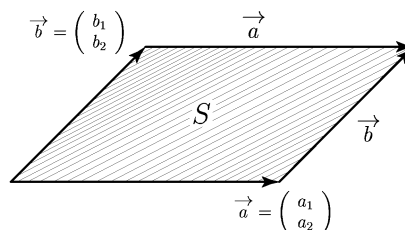
(2) $\begin{vmatrix} -1 & 2 \\ 0 & 4 \end{vmatrix}$

(3) $\begin{vmatrix} 4 & 6 \\ 2 & 3 \end{vmatrix}$

平面上の2つのベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \end{pmatrix}$ と

$\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \end{pmatrix}$ の作る平行四辺形の面積 S は

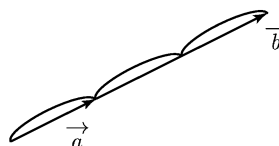
$$S = \begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix} \text{ の絶対値}$$



である。

例2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 6 \\ 3 \end{pmatrix}$ のとき

$$\begin{vmatrix} 2 & 6 \\ 1 & 3 \end{vmatrix} = 2 \times 3 - 1 \times 6 = 0$$



より2つのベクトル \vec{a} と \vec{b} の作る平行四辺形の面積は0(ゼロ)になる。

これは $\vec{b} = 3\vec{a}$ より \vec{a} と \vec{b} の作る平行四辺形は線分になるからである。

一般に \vec{b} が \vec{a} の実数倍 $\vec{b} = k\vec{a}$ (k は実数) になっているとき、 $\vec{b} // \vec{a}$ と書き、 \vec{a} と \vec{b} は平行であるという。

問2 \vec{a} と \vec{b} が以下の場合、 \vec{a} と \vec{b} が平行であるかどうか判定せよ。

もし平行であれば $\vec{b} = k\vec{a}$ の形に書け。

(1) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 9 \\ -3 \end{pmatrix}$ (2) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 8 \\ 9 \end{pmatrix}$ (3) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ -1 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} -4 \\ 2 \end{pmatrix}$

< ベクトルの均衡 >

例 天井の2ヶ所 A, B からひもをつけて、点 O で結び、O から別のひもをのばして、おもり C をつける。C が 10kg のとき、支点 A, B にどのくらいの力がかかるだろうか？

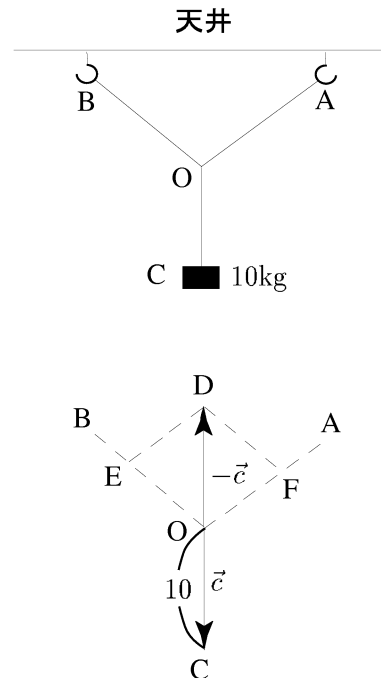
このような問題では、平面に図を書き、おもりの力をベクトル \vec{c} (長さを 10 にする) で表す。OA と OB の方向を点線で書き、 \vec{c} の逆ベクトル $-\vec{c}$ を O を始点に書く。 $-\vec{c}$ の終点を D とする。D に対し

$$\vec{OA} // \vec{ED}, \vec{OB} // \vec{FD}$$

となるように点 E, F をとると、OF の長さが支点 A にかかる力 (kg) で、OE の長さが支点 B にかかる力 (kg) になっている。このとき

$$\vec{OF} + \vec{OE} = \vec{OD} = -\vec{c}$$

となる。



問 右図のように 3 点 $A(2, 2)$, $B(-1, 2)$, $C(0, -1.5)$ がある (1 目もり 0.25)。 $\vec{OC} = \vec{c}$ とするとき

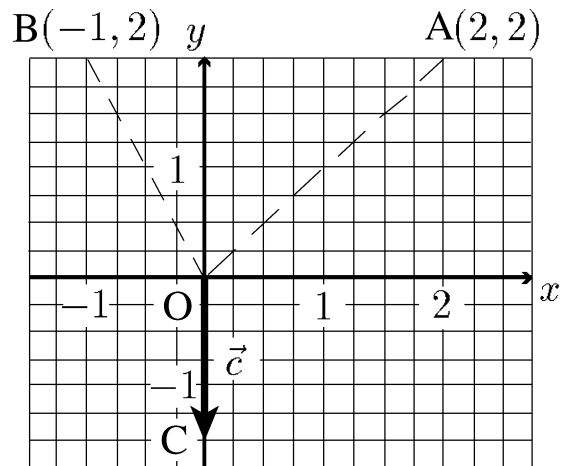
(1) $\vec{OD} = -\vec{c}$ となるような点 D の座標を求めよ。

(2) OA 上に点 F をとり、OB 上に点 E をとり

$$\vec{OF} + \vec{OE} = \vec{OD}$$

となるように、右図に E と F を作図せよ。

(3) $\vec{OF} = k_1 \vec{OA}$,
 $\vec{OE} = k_2 \vec{OB}$ となるような定数 k_1 と k_2 を求めよ。



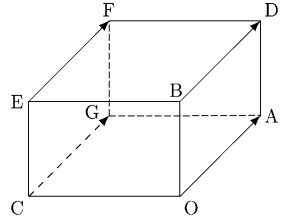
<空間のベクトル1>

速度や力などのように、方向と大きさをもつベクトルは、平面上だけでなく空間においても同様に扱える。

例1 右図の直方体の頂点を始点、終点とするベクトルのうちで、 \vec{OA} に等しいものは

$$\vec{BD}, \vec{EF}, \vec{CG}$$

である。すなわち $\vec{OA} = \vec{BD} = \vec{EF} = \vec{CG}$ である。



問1 例1で、 \vec{OB} に等しいものと \vec{OC} に等しいものを全て書け。

(1) $\vec{OB} =$

(2) $\vec{OC} =$

空間のベクトルについても、和・差、実数倍は平面のベクトルと同様である。

例2 例1の直方体で

$$\vec{OA} + \vec{OB} = \vec{OA} + \vec{AD} = \vec{OD}$$

$$\vec{OA} + \vec{AB} = \vec{OB}, \quad \vec{AB} = \vec{OB} - \vec{OA}$$

$$\vec{OA} + \vec{OB} + \vec{OC} = (\vec{OA} + \vec{OB}) + \vec{DF} = \vec{OD} + \vec{DF} = \vec{OF}$$

問2 例1の直方体で $\vec{OA} = \vec{a}, \vec{OB} = \vec{b}, \vec{OC} = \vec{c}$ とするとき、次のベクトルを $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ で表せ。

(1) $\vec{OG} =$

(2) $\vec{OE} =$

(3) $\vec{OF} =$

(4) $\vec{DG} =$

(5) $\vec{FB} =$

(6) $\vec{CD} =$

<空間のベクトル2>

Oを原点とする空間における座標軸上の
3点 $E_1(1, 0, 0)$, $E_2(0, 1, 0)$, $E_3(0, 0, 1)$
に対し、

$$\vec{e}_1 = \overrightarrow{OE_1}, \vec{e}_2 = \overrightarrow{OE_2}, \vec{e}_3 = \overrightarrow{OE_3}$$

を基本ベクトルという。

空間における任意のベクトル \vec{a} の始点を
原点にもっていき、 $\vec{a} = \overrightarrow{OA}$ となる点 A の座標が (a_1, a_2, a_3) のと
き、

$A_1(a_1, 0, 0)$, $A_2(0, a_2, 0)$, $A_3(0, 0, a_3)$ とおくと、

$$\vec{a} = \overrightarrow{OA_1} + \overrightarrow{OA_2} + \overrightarrow{OA_3}$$

となる。 $\overrightarrow{OA_1} = a_1 \vec{e}_1$, $\overrightarrow{OA_2} = a_2 \vec{e}_2$, $\overrightarrow{OA_3} = a_3 \vec{e}_3$ より

$$\vec{a} = a_1 \vec{e}_1 + a_2 \vec{e}_2 + a_3 \vec{e}_3$$

と表される。この a_1, a_2, a_3 を \vec{a} の成分といい、 $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$ と表す。

とくに $\vec{e}_1 = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\vec{e}_2 = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\vec{e}_3 = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\vec{0} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$ である。

問1 上図で、 $\overrightarrow{OA_1}$, $\overrightarrow{OA_2}$, $\overrightarrow{OA_3}$ を成分で表せ。

例 $A(1, 3, 2)$ に対し、 $\overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$

である。ここで、 $A_1(1, 0, 0)$, $B(1, 3, 0)$
とおくと

$$\begin{aligned} OA^2 &= OB^2 + AB^2 \\ &= (OA_1^2 + A_1B^2) + AB^2 \\ &= 1^2 + 3^2 + 2^2 = 14 \end{aligned}$$

より、ベクトル \overrightarrow{OA} の大きさは、 $|\overrightarrow{OA}| = \sqrt{14}$ である。

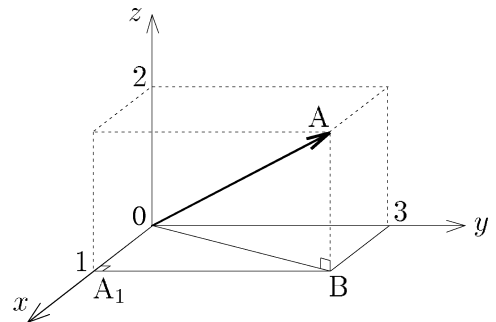
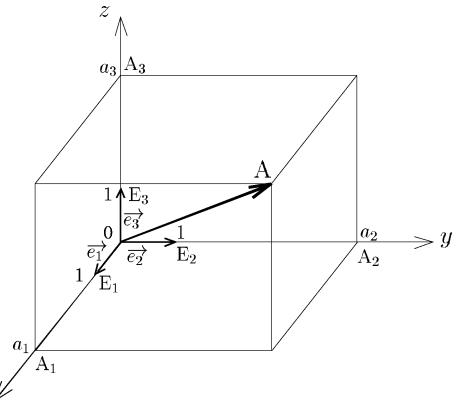
問2 \vec{a} の成分が以下の場合に、ベクトル \vec{a} の大きさ $|\vec{a}|$ を求めよ。

(1) $\vec{a} = \begin{pmatrix} 4 \\ 4 \\ 2 \end{pmatrix}$

(2) $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$

$|\vec{a}| =$

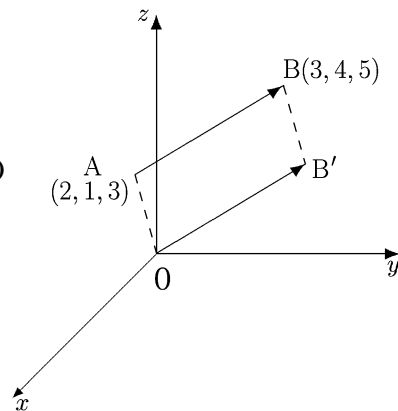
$|\vec{a}| =$



<空間のベクトル3>

例 空間座標上の2点 $A(2,1,3)$ 、 $B(3,4,5)$ に対し、ベクトル \overrightarrow{AB} の成分を求めたい。
ベクトル \overrightarrow{AB} を平行移動し、始点を原点 O にもっていくとすると、点 A が原点 O に移動するから

- x 軸方向に -2
- y 軸方向に -1
- z 軸方向に -3



だけ平行移動したことになる。このとき点 B も点 B' に(同じ様に)平行移動して、 $\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB'}$ となったとすると、 B' の座標は

$$B'(3 - 2, 4 - 1, 5 - 3) = (1, 3, 2)$$

となる。よって \overrightarrow{AB} の成分は

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB'} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$$

(別解) 次のように計算してもよい。

$$\overrightarrow{OA} + \overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB}$$

だから

$$\overrightarrow{AB} = \overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 - 2 \\ 4 - 1 \\ 5 - 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix}$$

問 空間の2点 A 、 B の座標が以下の場合に、ベクトル \overrightarrow{AB} の成分を求めよ。

(1) $A(3, 2, 4)$ 、 $B(2, 1, 3)$

$$\overrightarrow{AB} =$$

(2) $A(a_1, a_2, a_3)$ 、 $B(b_1, b_2, b_3)$

$$\overrightarrow{AB} =$$

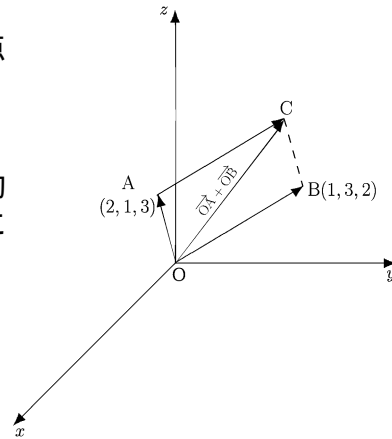
<空間のベクトル4>

例 空間の2点 $A(2,1,3)$ 、 $B(1,3,2)$ と原点 O に対し、ベクトル

$$\vec{OA} + \vec{OB}$$

の成分を求めたい。ベクトル \vec{OB} を平行移動し、始点が A になるようすると、 O が A に移動するから、

x 軸方向に $+2$
 y 軸方向に $+1$
 z 軸方向に $+3$



だけ平行移動したことになる。このとき点 B も点 C に同じ様に平行移動して、 $\vec{OB} = \vec{AC}$ となったとすると、 C の座標は

$$C(1+2, 3+1, 2+3) = (3, 4, 5)$$

となる。よって $\vec{OA} + \vec{OB}$ の成分は

$$\vec{OA} + \vec{OB} = \vec{OA} + \vec{AC} = \vec{OC} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}$$

(別解) 次の様に計算してもよい。

$$\vec{OA} + \vec{OB} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 3 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2+1 \\ 1+3 \\ 3+2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}$$

問 2点 A 、 B の座標が次の様な場合に、以下のベクトルの成分を求めよ。

(1) $A(3,2,4)$ 、 $B(2,1,3)$

$$\vec{OA} + \vec{OB} =$$

$$\vec{OB} - \vec{OA} =$$

$$2\vec{OB} =$$

(2) $A(a_1, a_2, a_3)$ 、 $B(b_1, b_2, b_3)$

$$\vec{OA} + \vec{OB} =$$

$$\vec{OB} - \vec{OA} =$$

$$3\vec{OA} =$$

< 空間座標と距離 >

例 1 空間上の 2 点 $A(1, 2, 3)$, $B(8, 7, 9)$ 間の距離 AB を求めたい。 AB はベクトル \vec{AB} の大きさであるから、原点を O とすると

$$\vec{AB} = \vec{OB} - \vec{OA} = \begin{pmatrix} 8 \\ 7 \\ 9 \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 7 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix}$$

$$AB = |\vec{AB}| = \sqrt{7^2 + 5^2 + 6^2} = \sqrt{110}$$

問 1 2 点 A, B の座標が以下の場合に、2 点間の距離 AB を求めよ。

(1) $A(3, -2, -1)$, $B(1, 2, -1)$, (2) $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$
 $AB =$ $AB =$

例 2 点 $A(x_0, y_0, z_0)$ を中心とし、半径 r の球面上に点 $P(x, y, z)$ があるとすると、 $AP = r$ より

$$AP = \sqrt{(x - x_0)^2 + (y - y_0)^2 + (z - z_0)^2} = r$$

が成り立つ。両辺を 2 乗した式

$$(x - x_0)^2 + (y - y_0)^2 + (z - z_0)^2 = r^2 \quad (\text{球面の方程式})$$

を中心 (x_0, y_0, z_0) 、半径 r の球面の方程式という。 $z =$ の形にした式をそれぞれ上半球面、下半球面の方程式という。

$$z = z_0 + \sqrt{r^2 - (x - x_0)^2 - (y - y_0)^2} \quad (\text{上半球面})$$

$$z = z_0 - \sqrt{r^2 - (x - x_0)^2 - (y - y_0)^2} \quad (\text{下半球面})$$

問 2 以下の球面の方程式が表す球の中心と半径を書け。

(1) $(x - 1)^2 + (y - 2)^2 + (z - 3)^2 = 25$

中心 (, ,), 半径 =

(2) $(x - 2)^2 + (y + 1)^2 + z^2 = 3$

中心 (, ,), 半径 =

(3) $x^2 + y^2 + z^2 = 16$

中心 (, ,), 半径 =

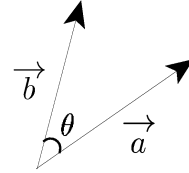
< ベクトルの内積 1 >

平面上のベクトルと同じように、空間の $\vec{0}$ でない2つのベクトル \vec{a}, \vec{b} のつくる角 θ を定めることができる。 ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$)

そして、 \vec{a} と \vec{b} の内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \cos \theta$$

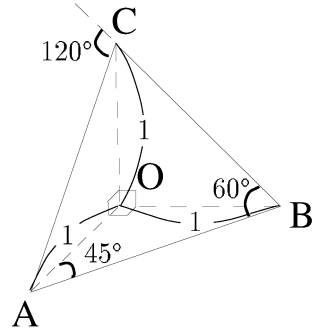
と定める。(どちらか一方が $\vec{0}$ のときは、内積は0とする。)



例 右図のような立体 OABC を考える。
ここで $OA=OB=OC=1$,

$$OA \perp OB, OB \perp OC, OC \perp OA$$

とする。このとき



$$\vec{AO} \cdot \vec{AB} = |\vec{AO}| \times |\vec{AB}| \times \cos 45^\circ = 1 \times \sqrt{2} \times \frac{1}{\sqrt{2}} = 1$$

$$\vec{BA} \cdot \vec{BC} = |\vec{BA}| \times |\vec{BC}| \times \cos 60^\circ = \sqrt{2} \times \sqrt{2} \times \frac{1}{2} = 1$$

$$\vec{BC} \cdot \vec{CA} = |\vec{BC}| \times |\vec{CA}| \times \cos 120^\circ = \sqrt{2} \times \sqrt{2} \times \left(-\frac{1}{2}\right) = -1$$

問 右の図は、1辺の長さが1の立方体である。
このとき次の内積を求めよ。

(1) $\vec{AD} \cdot \vec{AF} =$

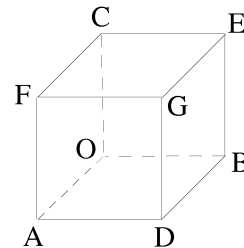
(2) $\vec{AD} \cdot \vec{AB} =$

(3) $\vec{FE} \cdot \vec{FD} =$

(4) $\vec{AD} \cdot \vec{OC} =$

(5) $\vec{AD} \cdot \vec{CE} =$

(6) $\vec{AD} \cdot \vec{GF} =$

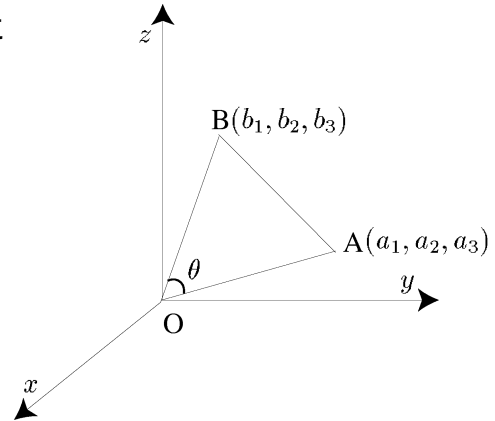


< ベクトルの内積 2 >

空間の2点 $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$ と原点 O に対し、 $\angle AOB = \theta$ とすると、余弦定理より、

$$(*) \quad OA \times OB \cos \theta = \frac{1}{2} \{OA^2 + OB^2 - AB^2\}$$

となる。



問1 OA, OB, AB の長さの2乗を $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$ で表せ。

$$OA^2 = \quad , OB^2 =$$

$$AB^2 =$$

問2 $(*)$ 式の右辺を $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$ についての簡単な式で表せ。

$$\frac{1}{2} \{OA^2 + OB^2 - AB^2\} =$$

問3 $\vec{a} = \overrightarrow{OA} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \overrightarrow{OB} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ とすると、内積は

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \times \cos \theta = OA \times OB \times \cos \theta$$

問2の結果を使って、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を $a_1, a_2, a_3, b_1, b_2, b_3$ についての簡単な式で表せ。

$$\vec{a} \cdot \vec{b} =$$

<ベクトルの内積3>

2つのベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$ と $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ の内積は、前ページの
結果より

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3 \quad (\text{内積の成分表示})$$

となる。

例 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$ と $\vec{b} = \begin{pmatrix} -2 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$ のつくる角を θ とすれば、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = |\vec{a}| \times |\vec{b}| \times \cos \theta$$

より

$$\cos \theta = \frac{\vec{a} \cdot \vec{b}}{|\vec{a}| \times |\vec{b}|} = \frac{1 \times (-2) + (-1) \times 0 + 0 \times 2}{\sqrt{1^2 + (-1)^2 + 0^2} \times \sqrt{(-2)^2 + 0^2 + 2^2}} = -\frac{1}{2}$$

となる。よって $\cos \theta = -\frac{1}{2}$ ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$) だから、 $\theta = 120^\circ$ となる。

問 以下の場合に、 \vec{a} と \vec{b} のつくる角 θ ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$) を求めよ。

$$(1) \vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

$$(2) \vec{a} = \begin{pmatrix} 5 \\ 1 \\ 4 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$$

$$(3) \vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 1 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} -1 \\ 1 \\ -1 \end{pmatrix}$$

< 平面の方程式 1 >

例 空間の点 $Q(3, 4, 5)$ を通り、ベクトル

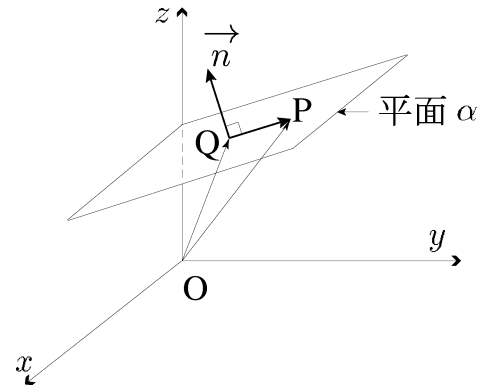
$$\vec{n} = \begin{pmatrix} -4 \\ -3 \\ 12 \end{pmatrix} \text{ に垂直な平面を } \alpha \text{ と}$$

する。平面 α 上の任意の点 $P(x, y, z)$

に対し、 \vec{n} と \vec{QP} は直交するから

\vec{n} と \vec{QP} との内積は $\cos 90^\circ = 0$ より

$$\vec{n} \cdot \vec{QP} = 0$$



となる。一方、

$$\vec{QP} = \vec{OP} - \vec{OQ} = \begin{pmatrix} x \\ y \\ z \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} x-3 \\ y-4 \\ z-5 \end{pmatrix}$$

であるから、

$$\vec{n} \cdot \vec{QP} = \begin{pmatrix} -4 \\ -3 \\ 12 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} x-3 \\ y-4 \\ z-5 \end{pmatrix} = -4 \times (x-3) + (-3) \times (y-4) + 12 \times (z-5) = 0$$

これを整理すると、

$$-4x - 3y + 12z - 36 = 0 \quad (\text{平面の方程式})$$

となる。これが平面 α を表す方程式である。このとき \vec{n} を平面 α の法線ベクトルという。

問 ベクトル \vec{n} と点 Q が以下の場合に、点 Q を通って \vec{n} に垂直な平面の方程式を求めよ。

(1) $\vec{n} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$, $Q(1, -5, 3)$

(2) $\vec{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$, $Q(q_1, q_2, q_3)$

< 平面の方程式 2 >

点 $Q(q_1, q_2, q_3)$ を通り、 $\vec{n} = \begin{pmatrix} a \\ b \\ c \end{pmatrix}$ に垂直な平面の方程式は

$$a(x - q_1) + b(y - q_2) + c(z - q_3) = 0$$

となる。

例 1 $2x + 4y + 3z = 0$ は原点 $(0, 0, 0)$ を通り、 $\vec{n} = \begin{pmatrix} 2 \\ 4 \\ 3 \end{pmatrix}$ に垂直な平面の方程式である。

例 2 $3x + 5y + 2z = 8$ を変形すると

$$3x + 5y + 2(z - 4) = 0$$

となるから、点 $(0, 0, 4)$ を通り、 $\vec{n} = \begin{pmatrix} 3 \\ 5 \\ 2 \end{pmatrix}$ に垂直な平面の

方程式である。

例 3 $z = 2x + 3y + 1$ を変形すると

$$2x + 3y - (z - 1) = 0$$

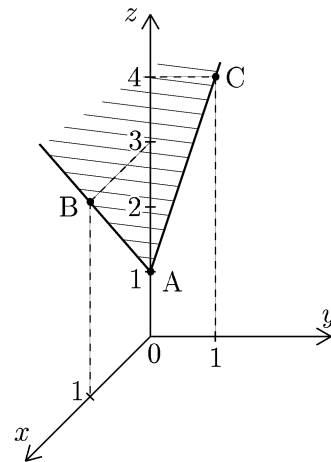
となるから、点 $(0, 0, 1)$ をとおり、

$\vec{n} = \begin{pmatrix} 2 \\ 3 \\ -1 \end{pmatrix}$ に垂直な平面の方程式

である。この平面は点 $A(0, 0, 1)$,

$B(1, 0, 3)$, $C(0, 1, 4)$ を通る

右図のような平面である。



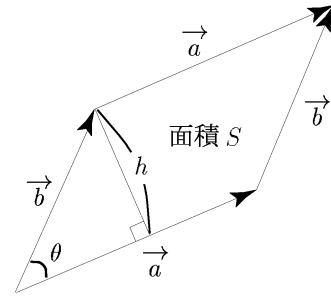
問 次の方程式はどんな平面を表すか。

(1) $x - y + 2z = 0$ (2) $3x + 2y - z = 5$ (3) $z = \frac{23 - 5x - 7y}{11}$

<空間の平行四辺形1>

例 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 6 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} -2 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}$ に対し、

右図のように、 \vec{a} と \vec{b} がつくる平行四辺形の面積 S を求めたい。



\vec{a} と \vec{b} のつくる角を θ 、平行四辺形の高さを h とすれば、

$$S = |\vec{a}| \times h, \quad h = |\vec{b}| \times \sin \theta$$

より

$$S^2 = |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 \times \sin^2 \theta = |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 \times (1 - \cos^2 \theta)$$

$$= |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 - |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 \times \cos^2 \theta = |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{b})^2$$

$$= (1^2 + 6^2 + 3^2) \times ((-2)^2 + 4^2 + 5^2) - (1 \times (-2) + 6 \times 4 + 3 \times 5)^2$$

$$= 701$$

よって $S = \sqrt{701}$ となる。

問 \vec{a}, \vec{b} が以下の場合に、 \vec{a} と \vec{b} のつくる平行四辺形の面積 S を求めよ。

$$(1) \vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 5 \end{pmatrix}, \quad \vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}$$

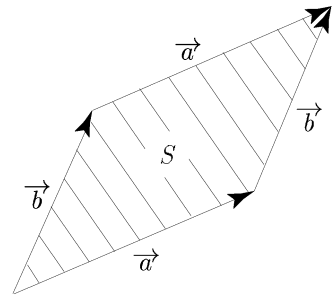
$$(2) \vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}, \quad \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

<空間の平行四辺形2>

一般のベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$

に対して、 \vec{a} と \vec{b} のつくる平行四辺形の面積 S を求めたい。

前ページと同様に考えると、



$$\begin{aligned}
 S^2 &= |\vec{a}|^2 \times |\vec{b}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{b})^2 \\
 &= \{(a_1)^2 + (a_2)^2 + (a_3)^2\} \times \{(b_1)^2 + (b_2)^2 + (b_3)^2\} - (a_1b_1 + a_2b_2 + a_3b_3)^2 \\
 &= (a_1)^2(b_1)^2 + (a_1)^2(b_2)^2 + (a_1)^2(b_3)^2 + (a_2)^2(b_1)^2 + (a_2)^2(b_2)^2 \\
 &\quad + (a_2)^2(b_3)^2 + (a_3)^2(b_1)^2 + (a_3)^2(b_2)^2 + (a_3)^2(b_3)^2 \\
 &\quad - \{(a_1)^2(b_1)^2 + (a_2)^2(b_2)^2 + (a_3)^2(b_3)^2 + 2a_1b_1a_2b_2 + 2a_2b_2a_3b_3 + 2a_1b_1a_3b_3\} \\
 &= \{(a_1b_2)^2 - 2(a_1b_2)(a_2b_1) + (a_2b_1)^2\} + \{(a_2b_3)^2 - 2(a_2b_3)(a_3b_2) + (a_3b_2)^2\} \\
 &\quad + \{(a_3b_1)^2 - 2(a_3b_1)(a_1b_3) + (a_1b_3)^2\}
 \end{aligned}$$

となる。

問1 S^2 を $\{ \ }^2 + \{ \ }^2 + \{ \ }^2$ の形にせよ。

$$S^2 =$$

問2 行列式の記号 $\begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix} = a_1b_2 - a_2b_1$ を用いて、 S^2 を表せ。

$$S^2 =$$

問3 S を行列式の記号を用いて表せ。

$$S =$$

<外積 1>

空間のベクトル $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ に対して、

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} a_2 & b_2 \\ a_3 & b_3 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} a_3 & b_3 \\ a_1 & b_1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{pmatrix} \quad (\vec{a} \text{ と } \vec{b} \text{ の外積})$$

を \vec{a} と \vec{b} の外積という。外積の大きさは

$$|\vec{a} \times \vec{b}| = \sqrt{\left(\begin{vmatrix} a_2 & b_2 \\ a_3 & b_3 \end{vmatrix}\right)^2 + \left(\begin{vmatrix} a_3 & b_3 \\ a_1 & b_1 \end{vmatrix}\right)^2 + \left(\begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix}\right)^2}$$

であるから、前ページの結果より、 $|\vec{a} \times \vec{b}|$ は \vec{a} と \vec{b} の
つくる平行四辺形の面積 S に等しい。

(注) 今後、2つのベクトル \vec{a} と \vec{b} の間に積の記号 \times がある
場合は必ず外積を意味し、内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ と区別する。

例 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix}$ のとき、外積は

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 2 & 5 \\ 3 & 6 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 3 & 6 \\ 1 & 4 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & 4 \\ 2 & 5 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 2 \times 6 - 3 \times 5 \\ 3 \times 4 - 1 \times 6 \\ 1 \times 5 - 2 \times 4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 \\ 6 \\ -3 \end{pmatrix}$$

であり、内積は $\vec{a} \cdot \vec{b} = 1 \times 4 + 2 \times 5 + 3 \times 6 = 32$ である。

問 \vec{a} と \vec{b} が以下の場合に、外積 $\vec{a} \times \vec{b}$ と内積 $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を求めよ。

$$(1) \vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 5 \end{pmatrix} \quad (2) \vec{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

<外積 2 >

例 1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix}$ のとき、前ページの例より

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} -3 \\ 6 \\ -3 \end{pmatrix} \text{であった。このとき}$$

$$(\vec{a} \times \vec{b}) \cdot \vec{a} = \begin{pmatrix} -3 \\ 6 \\ -3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} = (-3) \times 1 + 6 \times 2 + (-3) \times 3 = 0$$

より $\vec{a} \times \vec{b}$ と \vec{a} は直交している $(\vec{a} \times \vec{b}) \perp \vec{a}$ 。又

$$(\vec{a} \times \vec{b}) \cdot \vec{b} = \begin{pmatrix} -3 \\ 6 \\ -3 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} 4 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix} = (-3) \times 4 + 6 \times 5 + (-3) \times 6 = 0$$

より $\vec{a} \times \vec{b}$ と \vec{b} も直交している $(\vec{a} \times \vec{b}) \perp \vec{b}$ 。

問 1 \vec{a} と \vec{b} が以下の場合に、 $(\vec{a} \times \vec{b}) \cdot \vec{a}$ と $(\vec{a} \times \vec{b}) \cdot \vec{b}$ を計算せよ。

$$(1) \vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ 5 \end{pmatrix} \quad (2) \vec{a} = \begin{pmatrix} 3 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}$$

例 2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ のとき

$$(\vec{a} \times \vec{b}) \cdot \vec{a} = \begin{pmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$$

$$= (a_2b_3 - a_3b_2)a_1 + (a_3b_1 - a_1b_3)a_2 + (a_1b_2 - a_2b_1)a_3$$

$$= a_1a_2b_3 - a_1a_3b_2 + a_2a_3b_1 - a_1a_2b_3 + a_1a_3b_2 - a_2a_3b_1 = 0$$

より $\vec{a} \times \vec{b}$ と \vec{a} は直交している。

問 2 例 2 の場合に、 $(\vec{a} \times \vec{b}) \cdot \vec{b}$ を計算せよ。

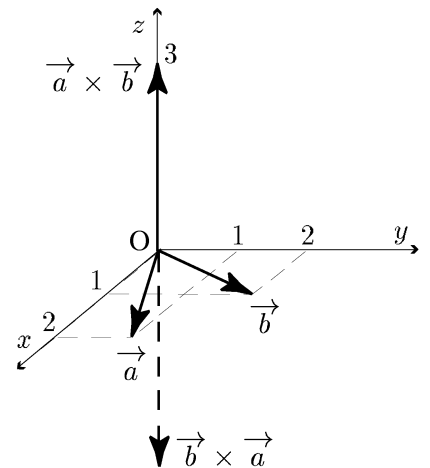
<外積3>

\vec{a} と \vec{b} との外積 $\vec{a} \times \vec{b}$ は \vec{a} (および \vec{b}) と直行していて、その大きさは \vec{a} と \vec{b} のつくる平行四辺形の面積に等しい。

例1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 0 \end{pmatrix}$ のとき、

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 12 \\ 00 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 00 \\ 21 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 21 \\ 12 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 3 \end{pmatrix}, \quad \vec{b} \times \vec{a} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 21 \\ 00 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 00 \\ 12 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 12 \\ 21 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ -3 \end{pmatrix}$$

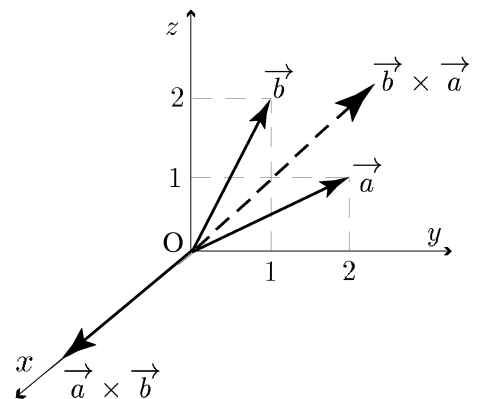
より $\vec{b} \times \vec{a} = -(\vec{a} \times \vec{b})$ となる。



例2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 0 \\ 2 \\ 1 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 0 \\ 1 \\ 2 \end{pmatrix}$ のとき、

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 21 \\ 12 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 12 \\ 00 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 00 \\ 21 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 3 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}, \quad \vec{b} \times \vec{a} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 12 \\ 21 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 21 \\ 00 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 00 \\ 12 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix}$$

より $\vec{b} \times \vec{a} = -(\vec{a} \times \vec{b})$ となる。

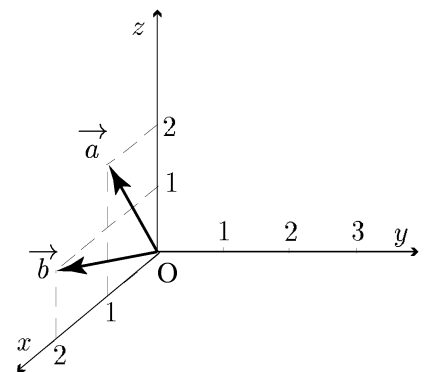


問 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \\ 2 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$ のとき、

$\vec{a} \times \vec{b}$ と $\vec{b} \times \vec{a}$ の成分を求め、
右に $\vec{a} \times \vec{b}$ と $\vec{b} \times \vec{a}$ を作図せよ。

$$\vec{a} \times \vec{b} =$$

$$\vec{b} \times \vec{a} =$$



<外積 4>

2つのベクトル \vec{a} と \vec{b} の外積 $\vec{a} \times \vec{b}$ は、 \vec{a} と \vec{b} に垂直なベクトルであり、大きさは \vec{a} と \vec{b} のつくる平行四辺形の面積 S に等しい。又 $\vec{a} \times \vec{b}$ の向きは \vec{a} から \vec{b} に、向かって回転するときに、右ねじの進む方向である。従って $\vec{b} \times \vec{a}$ はその反対向きであり

$$\vec{b} \times \vec{a} = -(\vec{a} \times \vec{b})$$

が成り立つ。

例1 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 4 \end{pmatrix}$ のとき

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 2 & 0 \\ 3 & 4 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 3 & 4 \\ 1 & -1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & -1 \\ 2 & 0 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 8 \\ -7 \\ 2 \end{pmatrix} \text{ である。}$$

次に $(2\vec{a}) \times \vec{b}$ を計算したい。右図から明らかに

$$(2\vec{a}) \times \vec{b} = 2(\vec{a} \times \vec{b}) = 2 \begin{pmatrix} 8 \\ -7 \\ 2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 16 \\ -14 \\ 4 \end{pmatrix}$$

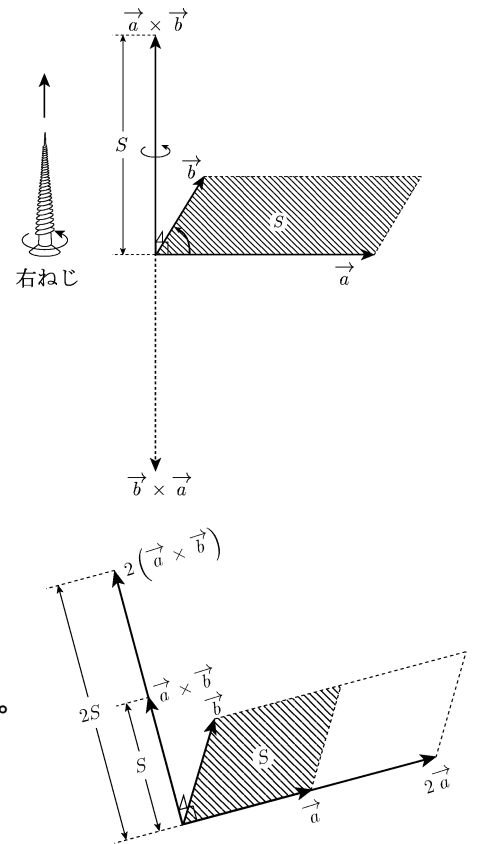
である。

例2 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ のとき $\vec{a} \times \vec{a} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 2 & 2 \\ 3 & 3 \\ 1 & 1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 2 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 2 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} = \vec{0}$

問 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \\ 4 \end{pmatrix}$ のとき、次の外積の成分を求めよ。

(ただし k は定数とする。)

- (1) $(3\vec{a}) \times \vec{b}$, (2) $(-\vec{a}) \times \vec{b}$, (3) $(k\vec{a}) \times \vec{b}$, (4) $\vec{a} \times (k\vec{a})$



< 外積の計算 1 >

$\vec{a} = \begin{pmatrix} a_1 \\ a_2 \\ a_3 \end{pmatrix}$ と $\vec{b} = \begin{pmatrix} b_1 \\ b_2 \\ b_3 \end{pmatrix}$ の外積の定義

$$\vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} a_2 & b_2 \\ a_3 & b_3 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} a_3 & b_3 \\ a_1 & b_1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} a_1 & b_1 \\ a_2 & b_2 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a_2b_3 - a_3b_2 \\ a_3b_1 - a_1b_3 \\ a_1b_2 - a_2b_1 \end{pmatrix}$$

より

$$\begin{aligned} (k\vec{a}) \times \vec{b} &= \vec{a} \times (k\vec{b}) = k(\vec{a} \times \vec{b}) \quad (k \text{ は定数}) \\ \vec{b} \times \vec{a} &= -(\vec{a} \times \vec{b}), \quad \vec{a} \times \vec{a} = \vec{0} \end{aligned}$$

等の性質が分かる。

例 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} -4 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix}, \vec{c} = \begin{pmatrix} 5 \\ 6 \\ 7 \end{pmatrix}$ に対し、

$$\vec{a} \times \vec{b} + \vec{a} \times \vec{c} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 2 & 0 \\ 3 & -1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 3 & -1 \\ 1 & -4 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & -4 \\ 2 & 0 \end{vmatrix} \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 2 & 6 \\ 3 & 7 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 3 & 7 \\ 1 & 5 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & 5 \\ 2 & 6 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -2 \\ -11 \\ 8 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} -4 \\ 8 \\ -4 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -6 \\ -3 \\ 4 \end{pmatrix}$$

$$\vec{a} \times (\vec{b} + \vec{c}) = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \times \left\{ \begin{pmatrix} -4 \\ 0 \\ -1 \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} 5 \\ 6 \\ 7 \end{pmatrix} \right\} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} 1 \\ 6 \\ 6 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 2 & 6 \\ 3 & 6 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 3 & 6 \\ 1 & 1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 6 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -6 \\ -3 \\ 4 \end{pmatrix}$$

より

$\vec{a} \times \vec{b} + \vec{a} \times \vec{c} = \vec{a} \times (\vec{b} + \vec{c})$ がわかる。

問 上の例で $\vec{a} \times \vec{b} - \vec{a} \times \vec{c}$ と $\vec{a} \times (\vec{b} - \vec{c})$ を計算せよ。

< 外積の計算 2 >

前ページの結果より、外積に関する計算法則

$$\vec{a} \times \vec{b} + \vec{a} \times \vec{c} = \vec{a} \times (\vec{b} + \vec{c})$$

$$\vec{a} \times \vec{b} - \vec{a} \times \vec{c} = \vec{a} \times (\vec{b} - \vec{c})$$

が分かる。

例 $\vec{b} \times \vec{a} = -\vec{a} \times \vec{b}$, $(k\vec{a} \times \vec{b}) = \vec{a} \times (k\vec{b}) = k(\vec{a} \times \vec{b})$

等の性質も使うと、次のような計算もできる。

$$\begin{aligned} 2(\vec{b} \times \vec{a}) + 3(\vec{a} \times \vec{c}) &= -2(\vec{a} \times \vec{b}) + 3(\vec{a} \times \vec{c}) \\ &= \vec{a} \times (-2\vec{b}) + \vec{a} \times (3\vec{c}) = \vec{a} \times (-2\vec{b} + 3\vec{c}) \end{aligned}$$

たとえば

$\vec{a} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix}$, $\vec{b} = \begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix}$, $\vec{c} = \begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -3 \end{pmatrix}$ の場合は

$$\begin{aligned} &2(\vec{b} \times \vec{a}) + 3(\vec{a} \times \vec{c}) \\ &= \vec{a} \times (-2\vec{b} + 3\vec{c}) = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \times \left\{ -2\begin{pmatrix} 3 \\ 4 \\ 5 \end{pmatrix} + 3\begin{pmatrix} 1 \\ -2 \\ -3 \end{pmatrix} \right\} \\ &= \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} -6+3 \\ -8-6 \\ -10-9 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \\ 0 \end{pmatrix} \times \begin{pmatrix} -3 \\ -14 \\ -19 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} -1 & -14 \\ 0 & -19 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 0 & -19 \\ 1 & -3 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & -3 \\ -1 & -14 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 19 \\ 19 \\ -17 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

問 上の例の \vec{a} 、 \vec{b} 、 \vec{c} に対し、

$$-(\vec{a} \times \vec{c}) - 2\vec{c} \times \vec{b}$$

を計算せよ。

< 直交系 >

空間の $\vec{0}$ でない3個のベクトル $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}$ が互いに垂直
($\vec{a} \perp \vec{b}, \vec{b} \perp \vec{c}, \vec{c} \perp \vec{a}$) であるとき $\{\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}\}$ を
直交系 という。

例 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 2 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \\ -2 \end{pmatrix}$ のとき、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = 2 \times 1 + 0 \times 3 + 1 \times (-2) = 0$$

より $\vec{a} \perp \vec{b}$ である。この \vec{a} と \vec{b} をもとにして、直交系を
作るには

$$\vec{c} = \vec{a} \times \vec{b} = \begin{pmatrix} \begin{vmatrix} 0 & 3 \\ 1 & -2 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 1 & -2 \\ 2 & 1 \end{vmatrix} \\ \begin{vmatrix} 2 & 1 \\ 0 & 3 \end{vmatrix} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -3 \\ 5 \\ 6 \end{pmatrix}$$

とおけばよい。外積の性質から $\vec{c} \perp \vec{a}, \vec{c} \perp \vec{b}$ となるからで
ある。実際

$$\vec{c} \cdot \vec{a} = (-3) \times 2 + 5 \times 0 + 6 \times 1 = 0$$

$$\vec{c} \cdot \vec{b} = (-3) \times 1 + 5 \times 3 + 6 \times (-2) = 0$$

よりわかる。

問 $\vec{a} = \begin{pmatrix} 6 \\ 0 \\ -2 \end{pmatrix}, \vec{b} = \begin{pmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ に対し、次の問に答えよ。

(1) $\vec{a} \cdot \vec{b}$ を計算せよ。

(2) $\vec{c} \perp \vec{a}, \vec{c} \perp \vec{b}$ となる \vec{c} を求めよ。

(3) $\vec{c} \cdot \vec{a}$ と $\vec{c} \cdot \vec{b}$ を計算せよ。